

令和 8 年度

「運営に関する計画」



大阪市立平林小学校

令和 8 年 4 月 1 4 日

学校協議会

令和8年度 大阪市立平林小学校グラウンドデザイン

学校組織目標
「相手を思いやる子」「挑戦する子」「ルールを守る子」の育成

これからの社会を生き抜く力へ

相手を思いやる子

具体的な教育活動
・ふわふわことば強調週間

挑戦する子

具体的な教育活動
・課題を立てる。
・情報を集め、整理する。
・発表する力
・話し合い、新たな考えに気づく。

ルールを守る子

具体的な教育活動
・ポジティブな行動支援
・教員同士の行動統一

これらの子どもを育成するための教職員体制
担任一人で抱え込むことなく対応する、「チーム制」の導入

学校をサポートいただく組織
PTA さざんか平林協議会 各種行政機関

大阪市立平林小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 基本的な生活規律の確立のため、あいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。児童会活動の「あいさつ運動」や各学級での取り組みにより、あいさつ運動の実施期間中は、校内のあいさつが活発化し、意識の向上が見られたものの、取り組み終了後には、あいさつの頻度が低下する傾向があり、継続的な実践につなげることが課題である。また、地域の「見守り隊」の方々へのあいさつなど、あいさつが学校内にとどまっており、学校外でお世話になっている方へのあいさつは課題である。
- ② 言葉遣いについては、一部の児童において、「死ね」「きもい」など相手を傷つける暴言が聞かれることがある。相手の立場や気持ちを十分に考えられず、感情のままに言葉を発してしまう場面があることが課題である。これらの生活指導上の対応は、学級担任が主に担っており、学級担任の負担が増加している傾向がみられ、複数の教員で対応できる体制づくりが課題である。
- ③ 異学年交流の機会を積極的に設け、児童同士の関わりを活発にする活動に取り組んできた。異学年交流を通して、上級生としての自覚を芽生えさせ下級生に対する思いやりの気持ちを育むことができるようにしてきた。今後も、異学年交流の機会を充実させ自尊感情や自己有用感を高められる取り組みを継続させることができるようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 基礎的な学力の定着を図る取り組みとして、これまでスタサプやデジタルドリルなどタブレットを活用した学習を行ってきた。これらにより、自主的に課題に取り組む姿勢が見られ、基礎的基本的な学習の充実につながった。その一方で、漢字検定の合格率では伸び悩み、課題が残った。
- ② 協働的な学びにおいては、一部の授業においてペア・グループ学習を導入することで、児童アンケートにおける「友だちの考えがわかる、ペアやグループ別にした授業はわかりやすい」の項目の結果は、良好であった。一方で、協働的な学びに関する指導や実践はそれぞれの学級で偏りがあることが課題であるため、学校全体で取り組みの質の向上を図っていく必要がある。
- ③ 各学級において実態に合わせた給食指導や食に関する指導の充実を図ってきた結果、給食の残食率は改善してきた。一方で、昨年度末に行った児童アンケート「すききらいせずに食べている」肯定的に回答する児童の割合が目標を大きく下回る結果となった。児童の内発的な意欲の変容を促す指導が必要である。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① ICT 機器(学習者用端末・教職員用端末・大型テレビ等)・デジタル教科書などを有効活用した「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業研究を学校全体で取り組み、わかり

やすい授業づくりに努めている。また、デジタル教科書を用いた授業や発表ノートやグループワークを取り入れた授業、調べ学習などで学習者用端末を活用することで、学習者用端末が児童にとって必要度は増してきている。しかし、効率的な検索や効果的な発表など課題は多く、使い方の工夫をしたり他の児童の使い方を参考にしたりする機会を持つ必要がある。そのための場として、ICTを使った授業場面を増やす必要がある。

- ② 本校では長時間勤務の実態が見られ、令和7年度は令和6年度と比較して、時間外労働時間が増加する傾向がみられた。業務量が決まった中で勤務時間を縮減するためには、さらなる業務の効率化や、精選が必要となる。教職員がひとりで抱え込むことがないように、学年に関わる教員の打ち合わせ会の時間を固定し、グループ対応を強化する。会議時間を減らすよう、案件を事前配付し、本会議での説明の時間等を減らす。その他計画的にできることは前倒しして処理することなど、様々な取り組みを行う必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。（基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現）
- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（基本的な方向2 豊かな心の育成）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）
- ・小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）
- ・小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらい時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（基本的な方向5 健やかな体の育成）

【学びを支える教育環境の充実】

- ・小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を60%以上にする。（基本的な方向6 教育DXの推進）
- ・教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン

【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 60 時間以上実施する教員をゼロにする。（基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（◎は R8 全市共通目標）

【安全・安心な教育の推進】

- ◎小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらい時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 55%以上にする。
- ◎教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 80 時間以上実施する教員をゼロにする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○総括

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○総括

【学びを支える教育環境の充実】

○総括

大阪市立平林小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>年度目標 ※再掲</p> <p>○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○縦割り班活動や異学年交流の機会を月に1回以上設け、児童一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。</p> <p>○チーム制を取り入れ関わる教員をわかりやすくすることで、児童一人ひとりが安心できる大人との関係づくりに努める。</p> <p>○チーム会議を週に1回以上行い、情報共有を密にとる。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を68%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○道徳心や社会性を高めるために、道徳科の学習を教科横断的に取り組み、命の大切さ、人権について考える機会をつくる。</p> <p>○児童のよいところや頑張っているところに着目し、声掛けやノートのコピーの掲示などで児童が認め合える機会をつくる。</p> <p>○学級で友だちのいいところを見つけ伝える機会を、学期に1回以上設ける。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】
次年度への改善点



大阪市立平林小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>年度目標 ※再掲</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらい時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○基礎学力の定着と個別最適な学びの推進を図る。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○総合的な学習の時間や各教科等において、協働的な学びの共有化を図るための校内研修の充実を図る。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「総合的な学習の時間や各教科等において自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○食への感謝を深め、関心を持って大切に食べようとする態度を育てる。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらい時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】

次年度への改善点

大阪市立平林小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標 ※再掲</p> <p>○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする。</p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月80時間以上実施する教員をゼロにする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>○授業時間のすき間や前後等を含め、デジタルドリルを自分たちで進められるようにする。</p> <p>○授業の中でICTを使う活動を多く取り入れる。(例:調べ学習, 発表活動, 観察記録, 体育や音楽等客観視するツールとして, メモ等)</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を55%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○学年間で話し合い、足並みを揃えることで、組織としての対応力を高める。</p> <p>○定期的に話し合いを持つことで、効率の良い方法を学んだり、自身の頭を整理したりして、業務の効率化を図る。</p> <p>指標</p> <p>○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月80時間以上実施する教員をゼロにする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】

次年度への改善点